

会津山間地域における「あきたこまち」の栽培法

福島県農業試験場冷害試験地

平成12・13年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

水稻－水稻－施肥法

分類コード 01－01－13000000

2 担当者

新妻和敏・菅家文左衛門・本馬昌直

3 要旨

- (1) 「あきたこまち」の移植1ヶ月後と幼穂形成期の茎数、幼穂形成期の茎数と穂数、穂数及び籾数と収量の間に関連関係が認められた。これをもとに、収量を55～64kg、65～74kgとした場合の移植1ヶ月後、幼穂形成期、成熟期の生育目標を作成した。
- (2) 窒素施肥法は、基肥0.6kg/a、0.8kg/aでは幼穂形成期追肥による増収が認められた。基肥0.6kg/aと0.8kg/aでは、精玄米重に差が見られず、基肥0.8kg/aでは倒伏程度が大きくなった。
- (3) 成熟期の稈長が85cm以下であれば、倒伏指数100以下に抑えられ、部分的にも倒伏程度3以上にはならなかった。幼穂形成期に追肥(窒素0.2kg/10a)を行い、稈長が85cm以下となるのは、草丈が65cm以下、葉色41以下(SPAD502値)の場合であった。

以上のことから、会津山間地域での「あきたこまち」の施肥体系は、基肥0.6kg/a＋幼穂形成期追肥0.2kg/aが適する。追肥の可否の判断は、幼穂形成期の生育をもとに行い、草丈が65cm以上、葉色41以上(SPAD502値)の場合には、追肥を行わないのが望ましいことが明らかになった。

4 その他の資料等

なし